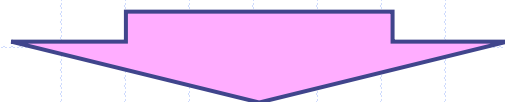


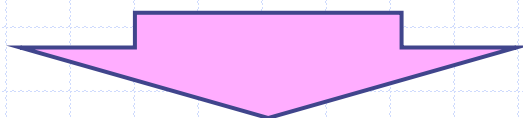
「民主主義」の担い手として主権者を育てる

“子ども”は“有権者”ではなくても、“主権者”



「子どもを市民にする」

「子どもをおとなに育てていく」



- ・子ども時代からの市民性の醸成が、地域づくり、社会づくりにつながる
- ・子どもを一人の人間として尊重する人権意識



林 大介

- ・1976年3月生まれ、O型、3児(5歳、高1、高3)、東京都町田市在住
- ・法政大学大学院 社会科学部 政治学専攻修士課程 政治学専攻修了
- ・中学、高校時代は吹奏楽部に所属(Trombone)

Mail dhayashi1976@gmail.com Web <http://www.hayadai.net/>

Twitter [hayadai1976](#) Facebook [hayadai](#)

● 関心領域

- ・市民性教育(民主主義教育、政治教育、権利・人権教育など)
- ・次世代育成(子どもの社会参加、ユースエンパワーメント)
- ・NPO運営(ファシリテーター論、団体運営、官民連携・ネットワーク論)

● 主な職務内容

- 町田市公立小学校障害児介助員(1998年4月1日～2001年3月)
- 特定非営利活動法人21世紀教育研究所(2001年9月～2007年1月)
- 私立桐朋女子中学高校非常勤講師(中3公民、高校政経)(2004年4月～2007年9月)
- 認定特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(2007年2月～2011年4月)
- 文部科学省生涯学習政策局 専門職(2011年5月～2013年3月)
- 東洋大学社会学部助教(2013年4月1日～2017年3月)
- 東洋大学ボランティア支援室 ボランティア・コーディネーター(2017年4月～2020年3月)
- 首都大学東京 特任准教授(2018年12月～2020年3月)
- 浦和大学 社会学部現代社会学科 准教授(2020年4月～)

● 主な関係団体

- 模擬選挙推進ネットワーク事務局長 / 日本シティズンシップ教育フォーラム運営委員
- 子どもの権利条約ネットワーク事務局長 / 主権者教育アドバイザー(総務省)



○子どもの権利／子どもの意見表明・参加／シティズンシップ教育関係

<行政関係>

- ・総務省・文部科学省「政治や選挙に関する副読本」作成協力委員(2015年3月～9月)
- ・総務省 主権者教育アドバイザー(2017年7月～)
- ・町田市 明るい選挙推進協会推進委員(2011年5月～現在)
- ・川崎市 子どもの権利委員会委員(第4期～／2013年11月～現在)
- ・世田谷区 子ども・青少年問題協議会委員(2015年5月～現在)
- ・西東京市 子ども条例検討専門部会 部会員(2017年10月～2018年5月)
- ・豊島区 青少年問題協議会委員(2018年12月～現在)
- ・中野区 子どもの権利委員会委員(2022年6月～現在)

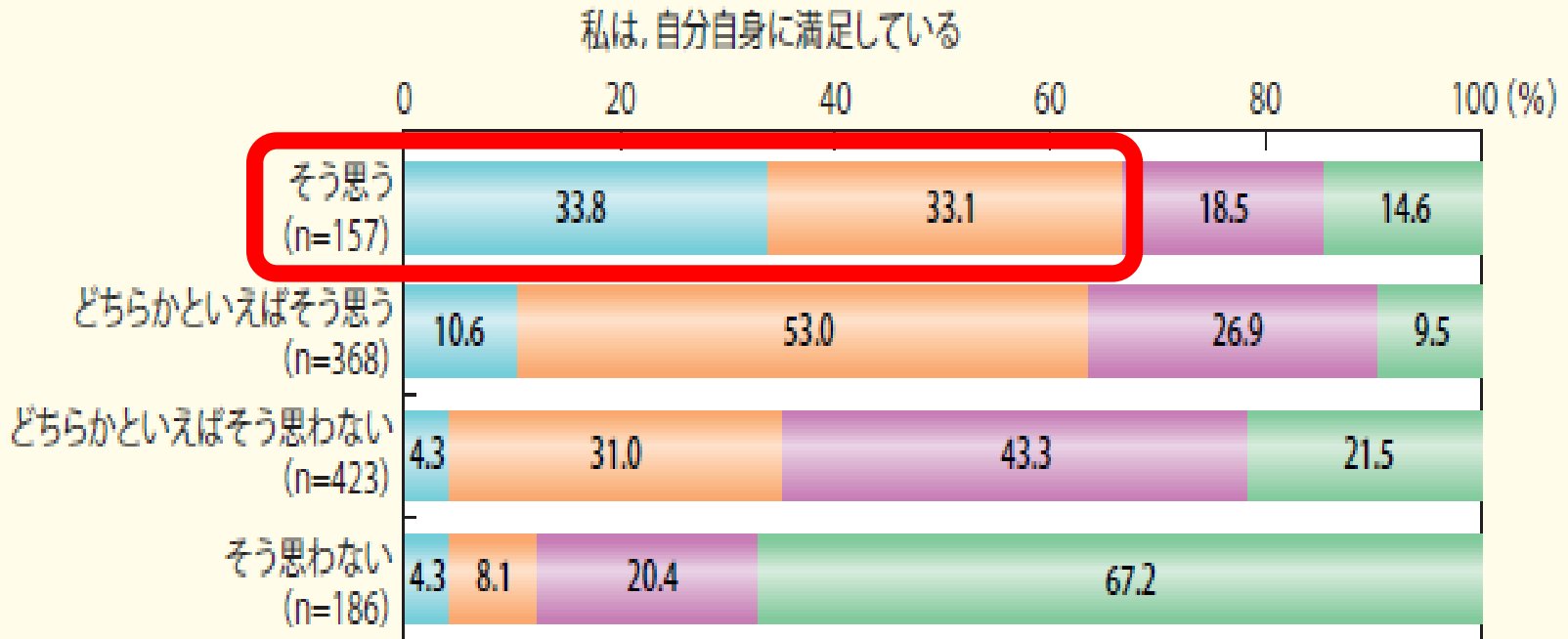
<教育・教職関係>

- ・子どもの権利条約ネットワーク 運営委員(1995年5月～現在)、
事務局長(2005年5月～2007年5月、2013年5月～現在)
- ・子どもの権利条約をすすめる町田の会代表(1995年11月～現在)
- ・模擬選挙推進ネットワーク事務局長(2006年12月～現在)
- ・公益社団法人ユニバーサル志縁センター理事(2012年4月～現在)
- ・認定特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
事務局次長(2009年5月～2011年12月)、事務局長(2012年1月～4月)

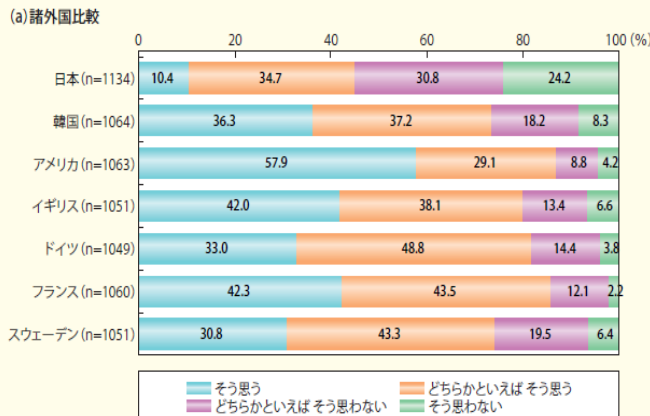


自分の考えをはっきり相手に伝えることができる者ほど 自分自身に満足している者の割合が高い

自分の考えをはっきり相手に伝えることができる



図表3 自分自身に満足している



■ そう思う ■ どちらかといえば そう思う
■ どちらかといえば そう思わない ■ そう思わない

実際に選挙に合わせて「未来の有権者」が投票を行う「模擬選挙」は、シティズンシップ教育として海外ではポピュラー

- ①国民の一人と実感し民主主義を体感
- ②賢い有権者を育てる
- ③投票率UP



2008年アメリカ大統領選挙→全米**700万人**が投票



2014年スウェーデン総選挙→全国**42万人**が投票



2002年町田市長選挙で模擬選挙を実施。以後、国政選挙等で実施

そもそも・・・

※国家・社会の形成者＝「**民主主義の担い手**」として求められる力

『私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身につけるために』2015年、総務省、文部科学省

○ 論理的思考力（とりわけ根拠をもって主張し他者を説得する力）

自分の意見を述べる際には根拠をもって説明することが重要であることを理解するとともに、異なる立場の意見がどのような根拠に基づいて主張されているかを検討し、議論を交わす力。

○ 現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力

現実の社会においては様々な立場やいろいろな考え方があることについて理解し、それらの争点を知った上で現実社会の諸課題について公正に判断する力。

○ 現実社会の諸課題を見出し、協働的に追究し解決（合意形成・意思決定）する力

お互いに自分の考えや意見を出し合い、他者の考えや価値観を受け入れたり意見を交換したりしながら、問題の解決に協働して取り組む力。

○ 公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

大きな社会変化を迎える中で、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きること、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していこうとする力。



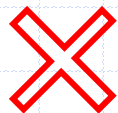
学校での主権者教育について

①政治的中立性

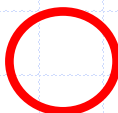
「教員は個人的な主義主張を述べることは避け、公正かつ中立な立場で生徒を指導すること」(2015年10月29日「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について(通知)」)

これまで = どちらの考えを扱わない

これから = 教育の場だからこそ、多様な意見・モノの見方を提示して、生徒自身が考えることができる機会を創出する

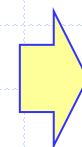


①「教師である私は、A党を支持し、B党を支持しない。その理由はXだからだ。みんなはどの党を支持するか？」



②「Xという考えをもってA党を支持する人がいます。一方で、Yという考えをもってB党を支持する人もいます。みんなはどのように考えるか？」

- ・政治的に対立する見解がある現実の課題を取り上げること
- ・国会等で審議されている法律案等を取り上げること
- ・政党の主張を取り上げること
- ・現職の国会議員や地方議員、首長などを学校に招くこと



すべて
可能



学校での主権者教育について

②「公民科」「社会科」だけでなく、教科の枠を超えた学校全体で主権者教育を

国語：新聞の論説を読み取らせ要約する

選挙向けのキャッチコピーを考える、スピーチ、小論文

英語：英字新聞や外国語ニュースを通して国際的な動向

著名な方の演説を聴き人を惹きつける話し方

数学：データの読み取り方や効果的なグラフの作成方法

休業補償がもたらす社会的影響や経済的損失

理科：covid-19含めたウィルスとは何か、ワクチンの有用性

地球温暖化、環境問題

家庭科：ワークライフバランス、女性活躍、男性の育児参画

18歳成人時代における契約や責任、消費者教育

美術：選挙啓発ポスター、デザインが人間に与える影響

音楽：各国の国歌の意味や歴史、戦時中の音楽、音楽を通じた自己表現

保健体育：オリンピック・パラリンピック、学年・性別・障害などを考慮した競技

性の自己決定

<自分の考えを発信しよう> 「小学国語 6下」教育出版

① 説得力のある文章を書こう

書く ② 自分の考えを発信しよう

世の中のさまざまなできごとについて、あなたが日ごろ感じたり、考えたりしていることをもとに意見文を書き、新聞などのメディアを通じて発信してみよう。

① 課題を決めて、取材する。

課題の探し方

- 日ごろから疑問に感じていること
- 大切にしていること
- こまっていること
- 改善したいこと
- ほかの教科の学習から



インターネットつとでも便利だけれど、利用するときには注意が必要だよ。もしたら安全に利用できるか、私の考えを広く伝えたいな。



見直しをもとう

漢字
16ページを見よう

学習の進め方

- ① 決めよう・集めよう
課題を決めて、取材する。
- ② 組み立てよう
自分の主張を効果的に伝える構成を考えよう。
- ③ 書こう
意見文を書こう。
- ④ 読み返そう
意見文を読み返す。
- ⑤ 伝え合おう
友達と読み合って、交流する。

ふり返ろう

改善
セン



利用内容	小学生 (1025人) (%)	中学生 (1161人) (%)
ゲーム	78.1%	72.8%
動画視聴	60.5%	74.0%
情報検索	40.5%	61.4%
コミュニケーション	32.5%	67.2%

○インターネットで調べたこと
 ・小学生の六十一・ハバースントが、ふだんの生活でインターネットを利用している。
 (平成二十八年 青少年のインターネット利用環境実態調査結果) 内閣府ホームページ <http://www.djpu.jp>

○クラスの友達へのアンケート
 ・「あなたは、インターネットを利用するとき、どんなことに気をつけていますか。」
 ↓情報の発信元はどこのかをかくにんするようにしている。

どの情報を使えばいいかな。



本やインターネット、新聞などで調べたり、身近な人へアンケートやインタビューをしてみたりして、さまざまな情報を集めよう。



取材するとき

自分の意見に説得力をもたせるためには、いろいろな立場からの見方や考え方をふまえて書くことが大切です。取材するときには、なるべく幅広い情報にふれるようにしましょう。

内閣府
専門家
セン

- (取材の観点)
- きっかけや自分の意見
 - 自分の経験
 - 専門家の意見
 - 本や資料から新しく知ったこと
 - など

<自分の考えを発信しよう> 「小学国語 6下」教育出版

大事な言い方

- くそうだ。
- くそではないだろうか。
- 確かに。しかし……
- くしていきたい。

↓ 143ページを見よう

4 意見文を読み返す。

書き終えたら、次のような点に気をつけて読み返しましょう。

- 伝えたいことに合った表現や構成になっているか。
- 事実と、感想や意見を区別して書いているか。
- 引用の仕方、図表などの使い方は適切か。
- 自分の意見や、根拠としてふさわしい資料を使っているか。

ここが大事

説得力をもたせて書く

- 自分の意見を明確にして書く。
- 理由や根拠を示して、意見の説得力が増すように書く。
- 自分が経験したこと。
- 調べたこと（インタビューやアンケートの結果・資料の内容など）。
- 実際にあったこと（事実）と自分の考えとを区別して書く。
- 予想される反対意見と、それに対する反論を示す。

くり返そう

- 理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書くことができましたか。
- 文章全体の構成や表現に気をつけて読み返したり、友達と読み合ったりすることができましたか。

5 友達と読み合って、交流する。



新聞に投書してみてもいいね。



「投書」って？

読者が、身近なできごとやテーマについて考えたり、感じたりしたことを書いて、新聞などのメディアに送ったものをいいます。多くの新聞には、投書をまとめたコーナーがあり、さまざまな考えにふれることができます。



自分の考えの発信

「投書」や「市長への手紙」「陳情」もありうる



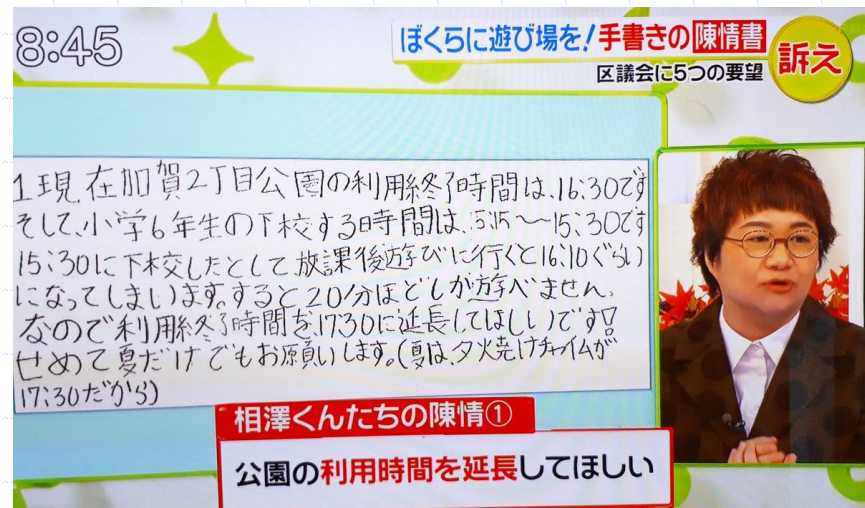
市民である子どもの声を施策に反映 = 市民意識の醸成

小学生が、板橋区議会に陳情

→4つ採択、1つ継続審議

これまでサッカーなどをして遊んでいた公園が区の施策によって、ボール遊びができなくなったため、「公園や広場のルール変更など5つの要望」を区議会に陳情書として提出。大人の『騒音』苦情は受け入れるが、区民なのに子どもたちの声は届かない。新聞、テレビでも大きく取り上げられている。

(2019年11月)

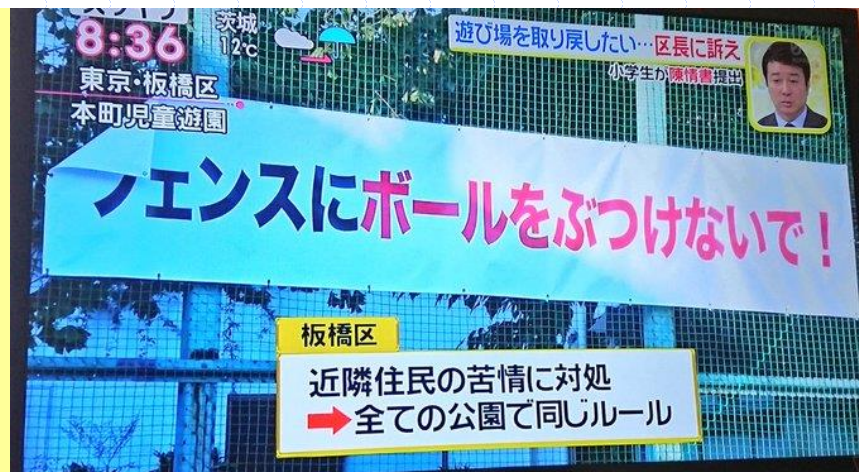


○セレモニー・体験型ではなく、子ども世代の声を行政施策に反映させる「子ども議会」「子ども会議」

- ・子ども会議・子ども議会：遊佐町、川崎市、松本市、豊田市、多治見市、奈良市、宝塚市、福岡町 等
- ・若者会議：新城市

○「選ばれる側」の議員と中高生の意見交換

- 岩手県久慈市議会「高校生×ギカイ かだつて会議」
- 宮城県柴田町議会「高校生との議会懇談会」
- 長野県松本市議会「高校生との意見交換」
- 岐阜県可児市議会「高校生との地域課題懇談会」
- 新潟県新潟市議会「中学校への出前講座」



林 大介
 dhayashi1976@gmail.com
 hayadai1976 hayadai

研究目的

<背景>

- ・若年層の低投票率・政治離れや、他国よりも低い10代の自己肯定観など、子ども・若者を取り巻く環境が芳しくない現状において、社会の担い手となる世代への主権者教育(シティズンシップ教育)の推進、社会参画の機会を設け主権者意識の醸成を図ることが必要
- ・10年以上に及ぶ模擬選挙に取り組んできたなか、18歳選挙権が施行(2015年6月公職選挙法改正)される

<目的>

以下の2点について国内外で調査研究を行い、次代を担う子ども・若者に対する主権者教育の実践及び子ども・若者の社会参画の促進、社会を担うリーダー育成の機会創出に寄与する

- ①主権者意識を育む教育のあり方の実践検証と評価
- ②次代を担う子どもの声を政治・行政に反映する機会(子ども議会、子ども会議等)の効果検証と評価

<研究費>

2013-2014年

科学研究費助成事業「研究活動スタート支援」<課題番号25885073「少子高齢社会における主権者としての「子ども」の社会参加推進のための総合的研究」>

2016-2018年

科学研究費助成事業「挑戦的萌芽」<課題番号16K13076「18歳選挙権を踏まえた主権者教育及び子どもの社会参画促進につなげる国際比較研究」>

2019年-2022年

科学研究費助成事業「基盤研究(C)(一般)」<課題番号19K02650「18歳成人時代の民主主義教育・子どもの社会参画の実践研究」>

海外視察

2014年9月5日～12日 スウェーデン・ストックホルム【スウェーデン総選挙】

小学校、中学校、高校、若者市民社会事業庁、生徒会組合、学童保育クラブ

2016年10月29日～11月7日 アメリカ・アリゾナ州【アメリカ大統領選挙】

小学校、中学校、高校、大学、州教育局、NPO

2017年9月10日～18日 ドイツ・ベルリン市【ドイツ総選挙】

政治教育センター、ユースセンター、キッズミュージアム、高校、保育園

2018年1月31日～2月8日 コスタリカ・サンホセ【コスタリカ大統領選挙】

選挙最高裁判所、国会議事堂、投票所、模擬選挙(チャンネル7、子ども博物館)、公教育省

2018年9月4日～13日 スウェーデン・ストックホルム【スウェーデン総選挙】

高校、若者市民社会庁、投票所、ユースセンター、森の保育園

2022年8月31日～9月8日 スウェーデン・ストックホルムなど (予定)

小学校、中学校、高校、若者市民社会庁、投票所、ユースセンター

2014/2018 スウェーデン総選挙



学校選挙で投票する
高校生



選挙の争点について
議論する高校生

- ・スウェーデン若者市民社会事業庁が「学校選挙(SKOLVAL)」の実施を呼びかけるほか、民主主義を学ぶための教材や指導マニュアルなどを配布
- ・スウェーデンにおいては、1960年代から学校選挙が取り組まれるようになり、1998年から国レベルで学校選挙を実施

2014/2018 スウェーデン総選挙

DEMOKRATI

Ordet demokrati kommer från grekiskan.

- "Demos" betyder "folk".
- "Krati" betyder "välde".

Demokrati betyder alltså att det är folket som bestämmer.

Demokratin föddes i Grekland för ungefär 2500 år sedan.

Motsatsen till demokrati är diktatur.

Frågor:

1. Vad är demokrati?
2. Vad är diktatur?
3. Vad betyder DEMOS?
KRATI?
DEMOKRATI?
4. Vilket språk kommer demokrati ifrån?
5. Vad skulle du välja?
6. Varför?



「民主主義」について
小学4年生で学ぶ

授業の一環で、各政党の選挙小屋(ブース)をヒアリングする中学生



気候危機のための学校ストライキ

@ストックホルム 2018/9/7

2016 アメリカ大統領選挙



模擬選挙で投票する中学生



「選挙人」について議論する高校生

- ・アメリカの模擬選挙は、<Kids Voting USA>、<Students/Parents Mock Election(NSPME)> <スコラティック社(出版社)>がそれぞれ取り組んでいる
- ・1960年代くらいから取り組みがはじまっている
- ・各州ごとに教育カリキュラムが異なる

2016 アメリカ大統領選挙



「選挙権」の歴史を学ぶ
小学3年生



中学2年生の先輩が、
大統領選について中学1年生と話す

2017 ドイツ連邦議会議員選挙



中高生主催による討論会



高校での模擬選挙

2017 ドイツ連邦議会議員選挙



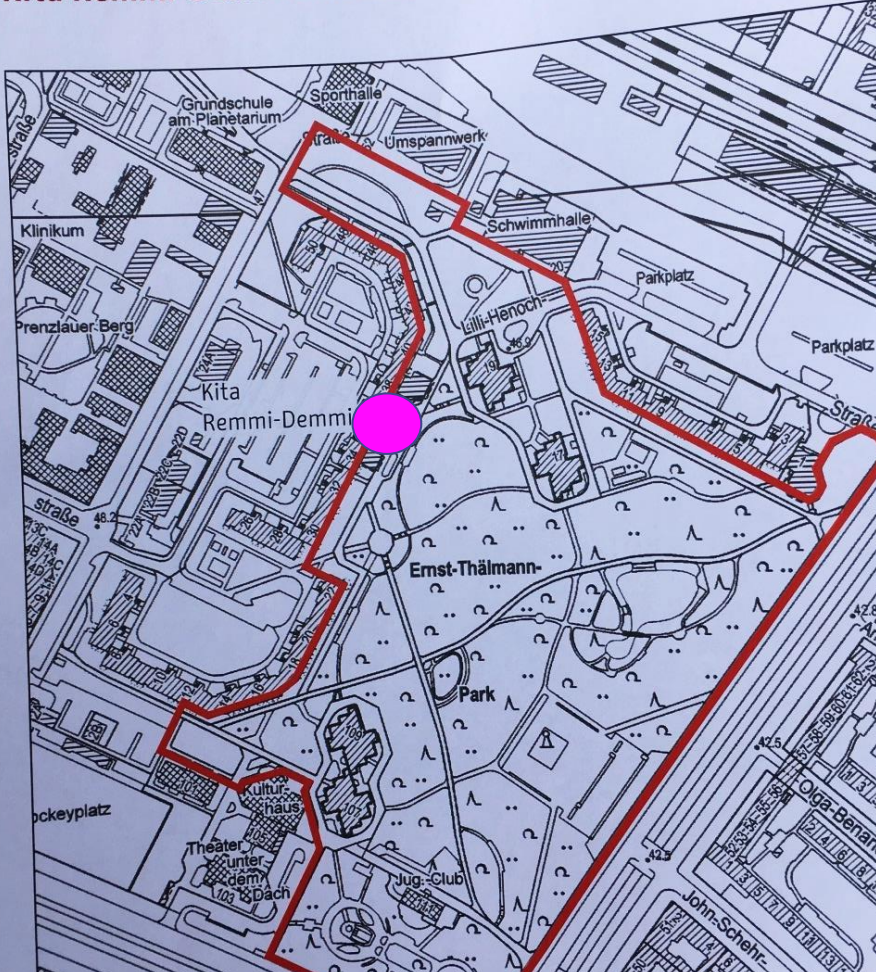
選挙期間中に小学生と議論する候補者
司会も小学生



討論会後は
候補者を囲んで質問タイム

Parkdetektive im Ernst-Thälmann-Park

Kita Remmi-Demmi am 12.9.2017



保育園の近くの公園の改修にあたり、日常の利用者である園児(4歳)からヒアリングするために、行政職員が「好きなところ＝緑」「嫌なところ＝赤」を覚えてもらう。(ドイツ)

2018 コスタリカ大統領選挙

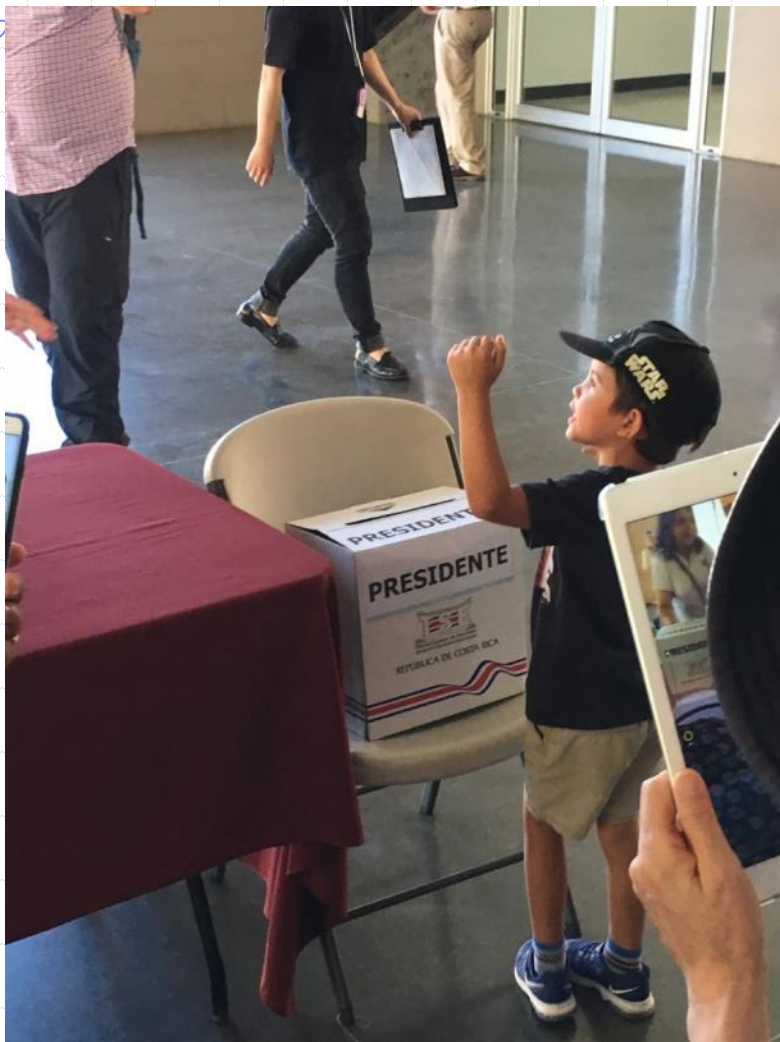


選挙最高裁判所が作成した
児童会・生徒会選挙マニュアル



支持する政党の旗を持って
選挙運動する小学生

2018 コスタリカ大統領選挙



子ども博物館での模擬選挙



家族そろって模擬選挙で投票

海外の取り組みからの視座

- ・子どもも一人の人間として尊重されている。自分の考えや意見を伝えることが重視され、安心して自分の考えや意見を伝えることができる
- ・他人の意見や考えを尊重することも重視し、多様性を尊重している
- ・社会の動きについて、子ども時代から関心を持たせることに、学校や家庭、社会が取り組み、子どもも社会を構成する一員として、社会参加することを奨励している。当然、おとな自身も、社会に参加している。
- ・学校教育においては、教員は特定の主義主張のみを取り上げることはせず、多様な考えや意見を示すことを心がけている。生徒が特定の主張を訴えた場合は、当然、異なる立場の主張を取り上げバランスをとっている。
- ・教員は、自分の考えを押し付けることは一切せず、子ども自身が考える機会創出に腐心している
- ・いずれにしても、子ども時代から民主主義やシティズンシップを意識する取り組みを行っており、その結果として、若年層の投票率も高くなっている

アンドレ・ホドリゲス ラリッサ・ヒベロ
パウラ・デスグアウド ペドロ・マルクン © 木下真穂 ©

どうぶつ せんきょ

どうぶつせんきょ (絵本)

アンドレ・ホドリゲス,
ラリッサ・ヒベロ,
パウラ・デスグアウド,
ペドロ・マルクン

木下 真穂 (翻訳)
林 大介 (監修)

ほるぷ出版

2021年6月出版

ほるぷ出版

御活用ください！

主権者教育のためのDVD
2016年6月3日発売！

ゼロから始める主権者教育 18歳の選挙権

6480円(税込)/アジア太平洋資料センター

第1部 投票する？しない？初めての選挙(20分)

取材協力

- ・東京都立南葛飾高校
- ・葛飾区選挙管理委員会
- ・NPO法人僕らの一歩が日本を変える。
- ・子どもの貧困対策センター
- ・POLIS(オーストラリア シティズンシップ教育センター)

出演

- ・三浦まり(上智大学)、林大介(東洋大学)

第2部 伝わる授業の組み立て方

- ・総務省・文科省「私たちが拓く日本の未来」を含め、授業のヒントを林大介が解説



ぜひ御覧ください！

「18歳選挙権」で 社会はどう変わるか

集英社新書

2016年6月17日発売

778円(税込)



序章 子どもに政治の話はわからないのか
第一章 「18歳選挙権」制度の経緯と展望
第二章 主権者教育を阻む「政治的中立性」の壁
第三章 「模擬選挙」とは何か
第四章 一八歳“まで”の政治参加
一社会全体で育む子どもの主権者意識
終章 政治を変えることは、教育を変え、社会を変えること

★東京大学・慶應義塾大学教授

鈴木 寛氏 推薦！ ★

“問題を解くためのカギは、いつも“未来のおとな”たちが握っている。
本書は「若者と政治」の関係を考えるうえで、最高の入門書である”

ぜひ御覧ください！

18歳成人社会ハンドブック 制度改革と教育の課題

田中治彦、林大介、藤原孝章、南部義典

明石書店 2018年3月発売

2916円(税込)



序章 18歳成人をめぐる諸問題——「大人」とは何か？

第1章 18歳成人問題の歴史

第2章 18歳選挙権に関わる若者の運動

第3章 18歳選挙権と主権者教育

第4章 18歳成人と市民教育の進め方

第5章 大人になるための市民教育

第6章 年齢制度の法体系とその見直し

第7章 国民投票権年齢

第8章 選挙権年齢

第9章 成年年齢

第10章 少年法適用対象年齢

第11章 見直し対象外の年齢

資料1 18歳成人・選挙権に関する参加体験型教材

資料2 成人年齢関係年表

本日はありがとうございました。
主権者としての子どもの
社会参加をすすめていきましょう！

林 大介

dhayashi1976@gmail.com

<http://www.hayadai.net/>

<http://www.mogisenkyo.com/>

Twitter hayadai1976

Facebook hayadai

